

## 福岡県におけるハチクマの繁殖初記録

伊関文隆

〒819-1117 福岡県前原市前原西 1-7-31-303

### はじめに

ハチクマ *Pernis apivorus* は日本では夏鳥として北九州以北に渡来し、低山から山地の林に生息する猛禽類である(森岡ほか 1995). 福岡県では、ハチクマは繁殖期に観察されているものの、繁殖は確認されていない(福岡県環境部自然環境課 2001). 筆者は、2004年に福岡県ではじめてハチクマの繁殖を確認したので報告する.

本稿の執筆にあたり、多くの資料を提供していただきました上田浩平氏、田村耕作氏、植生調査を快く引き受けていただいた大西亘氏に心より御礼申し上げる.

### 調査地および調査方法

ハチクマの巣内育雛期から巣外育雛期にあたる2004年 7月12日～9月 8日のあいだの30日間(約173時間)、福岡県西部の背振山地で調査を行なった. ハチクマの繁殖を確認するために、営巣地が推定できるまではハチクマの移動方向へ定点を変更しながら、双眼鏡および望遠鏡を使用して成鳥が餌を運んで行く先を追跡し、巣の場所を特定した. 巣の場所を特定した後は、巣を発見するために林内で踏査を行なった. 巣を特定できた後は、営巣地から約100mの地点で車の中から調査を行なうとともに、別の角度から営巣地を観察できる巣から約650m離れた定点でも調査を行なった. ヒナの巣立ち後はヒナの移動にあわせて別の定点から観察を行なった.



図 1. 巣と枝に隠れているヒナ  
Fig. 1. A nest and a chick  
hidden behind twigs.

2005年11月19日 受理

キーワード: ハチクマ, 繁殖記録, 福岡県

雄成鳥は右翼の第 6 初列風切 (P 6) は先が切れて短く、左脚の第 4 趾が無く、飛翔時は第 2 趾および第 3 趾が体と垂直に垂れている点に特徴があり、その特徴により周囲に生息しているハチクマと識別することができた。

2005年 7月16日～8月27日のあいだの13日間(約70時間)にも同じ定点で、前年発見した巣で繁殖しているかどうかを確認するための調査を行なった。

営巣環境の調査はヒナの巣立ち後の2004年 9月19日に行ない、営巣した谷の植生状況を調査するとともに、営巣木の樹種、樹高、胸高直径についても調査を行なった。

## 結果および考察

### 1. 巣の発見と繁殖状況

2004年 7月12日～14日は定点調査により、餌と思われるものを持って飛翔していく個体を追跡し、巣の場所を推定した。7月15、16日は定点調査後に、巣場所と推定した場所を踏査したが、巣は発見できなかった。7月17日に再度踏査を行なったところ、スギ *Cryptomeria japonica* から雌成鳥が飛び出すのを目撃し、そこに巣を発見した(図 1)。巣は真下からでは見えない位置につくられていた。8月 6日に巣を観察し、巣の上に成鳥とほぼ同大と思われるヒナを確認した。営巣木付近の地面にはハチ類の巣や羽根などの生活痕は見つからなかった。

7月12日から 9月 2日までの約168時間に、ハチクマを確認した回数は雄成鳥の飛翔を200回、営巣地にとまっているのを確認したのが38回、雌成鳥はそれぞれ69回と30回だった。8月16日に営巣木付近にて巣立った幼鳥をはじめ確認した。8月12～15日には確認できなかったが、林内を移動している巣立ちヒナを確認するのは困難なので、8月初旬～中旬に巣立ったと考えられる。8月16日から終認日の 9月 2日までの約46時間に飛翔を21回、とまっているのを 9回観察した。8月24日には帆翔、翼を上げるディスプレイと考えられる飛翔をするなど頻繁に飛翔していた。

2005年は2004年の営巣木では繁殖を確認することはできなかった。しかし、2004年の営巣地から北東に約200m離れた隣接する谷を中心に、7月16日から 8月21日までの約61時間に雄成鳥が餌を運んだり飛翔したりしているのを50回、谷付近にとまっているのを 8回、雌成鳥をそれぞれ35回と8回確認した。8月11日から17日には幼鳥を 7回観察し、この谷で繁殖していたと考えられた。しかし、9月 3日および11月16日に、巣があると推定した場所の踏査を行なったが、巣や生活痕を発見することができなかった。

2004年の成鳥雄は左脚の第 4 趾が無い特徴があったが、2005年の雄も同様の特徴を有し、同一個体と考えられた。雌成鳥については色彩と模様が前年と同一だった。ハチクマは色彩と模様に変化に富む特徴がある(森岡ほか 1995)ので、雌についても同一個体の可能性が高いと考えられた。

### 2. 営巣環境

2004年の営巣地は東西にのびる主稜線(標高600～900m程度)の北側中腹(標高350m程度)に



図 2. ハチ類の巣を運ぶ雄成鳥

Fig. 2. An adult male carrying a hornet's nest.

位置していた。営巣地の周囲約 3kmの地域はスギ植林と竹林で大半を占め、常緑広葉樹林がパッチ状に点在していた。営巣地の谷筋は傾斜が10°程度であり、両岸の斜面は45°程度の傾斜であった。営巣木のあった谷底に近い部分はスギの植林で、左岸側斜面は竹林、右岸側斜面は常緑広葉樹林であった。営巣木のあったスギ植林には低木層にアオキ *Aucuba japonica*、ヤブニッケイ *Cinnamomum japonicum* が、常緑広葉樹林には高木層にタブノキ *Machilus thunbergii*、カラスザンショウ *Fagara ailanthoides*、低木層にヤブツバキ *Camellia japonica* が多く、両植生は手入れがなされていないため、竹が多く混入していた。営巣木から谷の上流方向へ約100mの位置には道路が横断しており、道路に沿って長さ100m位、幅70m位の樹林が伐採されていた。

営巣木は右岸側の谷底から約 8m、尾根から約50mの位置の高さ約23m、胸高直径24cmのスギだった。周囲のスギとは大きさや樹形に顕著な違いは見られなかった。巣は地上から約18mの横枝上で幹に接するようにかけてあった。

巣は地上からの目測で外径約100cm、厚さ約40cmであり、直径数cm未満の枝を幾重にも重ねてあった。

2005年の営巣地と思われた谷は、巣を発見できなかったので精査は行なわなかったが、一見したところ植生・地形・標高はほぼ同じであった。

### 3. 成鳥が運んでいたもの

2004年は雄成鳥がハチ類の巣を11回、カエル類を 1回、葉がついた枝を 3回、不明なものを12回の合計26回、営巣木付近へ運んでいるのを観察したが、左脚を常に垂らしていることもあり、何か持っているかどうかを判断できないことのほうが多いため、実際はより高頻度に運搬していたと考えられる。雌成鳥が何かを巣の付近へ運んでいるのは 1回しか観察できなかった。2005年は雄成鳥がハチ類の巣を 4回、不明なものを 3回、営巣木付近へ運んでいるのを観察した。雌成鳥は 7月16日に何かをくわえたまま営巣地と思われる谷から現れ、数百m飛翔して別の谷底に落とすのを目撃し

た。この行動は空になったハチ類の巣を捨てたものと考えられた。

#### 4. ディスプレー

調査中に雄成鳥または雌成鳥が、特に営巣地に近い場所とは限らず営巣地から 2km程度の範囲において、波状に飛翔しながら翼を 1~4回上げる、ディスプレイと考えられる行動を合計 8回観察したが、2005年に幼鳥をはじめ確認した日には雌成鳥が営巣地付近にて10回以上連続して行なっているのを 1度観察した。

#### 引用文献

- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑 日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.  
福岡県環境部自然環境課. 2001. 福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2001-. 福岡県総務部県民情報広報課, 福岡.

### The first breeding record of Honey Buzzards *Pernis apivorus* in Fukuoka Prefecture, southern Japan

Fumitaka Iseki

1-7-31-303, Maebarunishi, Maebaru, Fukuoka 819-1117, Japan

A pair of Honey Buzzards *Pernis apivorus* was first confirmed to breed in Fukuoka Prefecture, southern Japan in 2004. The nest was located in a *Cryptomeria* plantation *Cryptomeria japonica*. The nest tree was approximately 23m in height with a diameter of 24cm at breast height. It was not markedly different in size and shape from the neighboring other *Cryptomeria* trees. On 11 of 26 occasions, the pair carried hornet nests as prey to their nest. A total of eight display flights were observed within approximately 2km of the nest site.

Although the nest was not discovered, a pair of Honey Buzzards was also confirmed to breed in 2005 in a valley adjacent to the breeding site of the previous year. They were identified as the same pair as the previous year based on their physical characteristics and plumage.

*Key words: breeding record, Fukuoka Prefecture, Pernis apivorus*